

ロータリーの進化 年表

穴井元昭

1905年 シカゴ・ロータリークラブ（仲良しクラブ）の誕生

- ・一業種一会員制

初代会長はシルベスター・シール

1906年 ドナルド・カーターの入会と改革の始まり

- ・定款2か条の制定 (1) 会員の相互扶助 (2) 会員の親睦

・ドナルド・カーターの主張 自分たちのことだけしか考えない仲よしクラブは長つづきしない。他の人たちのことも考えなければいけない

・定款(3) シカゴ市の利益を推進し、その市民の中に市の対する誇りと忠誠の精神を普及すること

・親睦派と奉仕派との激しい路線論争が始まり、仲よしクラブから奉仕クラブへの脱皮が始まる ポール・ハリスはこれをルネッサンスと称している

1907年 ポール・ハリスが自ら立候補して3代目の会長になる

・会長としての抱負：(1) シカゴクラブの拡大 (2) 他都市にもクラブを作る (3) 社会奉仕を強化する 社会奉仕の一環として公衆便所の設置運動を行った

1908年 アーサー・フレデリック・シェルドンとチェスリー・R・ペリーの入会 職業向上サービス思想の普及

・シェルドンの「He profits most who serves best、最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の考え方が、金もうけだけが目的の卑しい職業と考えられていた実業がお客に奉仕をする職業と評価されることになり、職業向上サービスと呼ばれ、ロータリーに奉仕の理念が普及することになった

- ・11月 サンフランシスコに二番目のクラブ、12月 オークランドに三番目のクラブ

1909年 6月 シアトルに四番目、ロス・アンジェルズに五番目、ニューヨークに6番目、続いてボストン、タコマ、ミネアポリス、ニューオリンズにクラブの創立

1910年8月 16クラブ、会員1600名をまとめた「全米ロータリー連合会」が結成された

- ・会長 ポール・ハリス 事務総長 チェスリー・R・ペリー

1911年 第2回全米ロータリー連合会でシェルドンの「He profits most who serves best」が大会宣言の結語に使用される

・もう一つの重要な標語の「Service above self」のもとになる「Service, not self」を含む演説をフランク・コリンズが行った

- ・ハリスが互惠取引の制度の廃止を呼びかけた

- ・カナダのウイニペグに、米国以外の最初のロータリークラブが作られた

1912年 アイルランドのダブリン、英国のロンドンにロータリークラブ設立
・8月「国際ロータリークラブ連合会」に改称された

1914年 福島喜三次（佐賀県有田町出身、三井物産）がダラス RC に入会
・7月 第一次世界大戦勃発

1915年 地区制度、ガバナー制度が発足
・標準ロータリークラブ定款とモデル細則がサンフランシスコ大会で採択される

1916年 ガイ・ガンディカーが「ロータリー通解」を執筆 **社会福祉サービス運動の台頭**

・身体障害児童救済運動が始まる（ニューヨーク州シラキュース RC）

1917年 アトランタ大会でアーチ・クランフがロータリー財団の前身である財団を設立

・身体障害児協会設立（トレド RC、社会福祉サービス運動のリーダーであるフランク・マルフォランドのホームクラブ）

1919年 国際会議（のちの国際協議会）の制度ができ、ガバナーエレクトの研究が始まる

・アジアで最初のロータリークラブがマニラにできる

1920年 職業向上サービス派と社会福祉サービス派の対立の激化 東京ロータリークラブが設立される

・エリリア RC のエドガー・アレンが国際身体障害児協会を発足させる

1922年 大阪ロータリークラブ設立

・国際ロータリー（RI）に改称

1923年 決議 23-34 が採択され、ロータリーの分裂が回避される

1927年 ベルギーのオステンド大会で奉仕が四つに分類される

・クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕

まとめ

・ロータリークラブは「奉仕を志す人達の集まりである」

・日本人は国民性として、見ず知らずの人を助けるよりも自己責任や自助努力を好む傾向がある